



研究者名※	遠藤知巳	学位※	博士(社会学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	教授
連絡先	tendo@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0196672		
研究分野※	社会学		
研究キーワード※	文化、宗教、社会意識、知識・科学・技術、コミュニケーション・情報・メディア		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴			

研究領域	近代性(modernity)の歴史社会学	(SDGs)
研究テーマ※	近現代社会における意味／「コミュニケーション」の言説分析、およびそれを通じた近現代社会の理論的探究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】社会学において、近代性とは現代社会をも包含する、制度・意味・人間間の関係性の諸様式の複合の様態を指している。近代社会は、政治・経済・文化形態・メディア等における一連のフォーマットの組み合わせとして、17世紀前後の西欧から開始されたが、1)「社会(society)」概念自体も含んだかかる近代性の地平の歴史社会的・言説史的探究(西欧、とくにイギリス)に加えて、現代においては、2)近代性の様相からのずれ出しもしくは変容としての現代性(「ポスト近代」)3)西欧近代の変異(variant)としての日本近代、という二つの屈折を視野に入れつつ、この三つの軸を横断的に思考することが重要であると考えている。</p> <p>【応用例、研究の展望】上記の目的のために、日欧のさまざまな言説ジャンルや意味形象を辿ることに興味をもっているが、人間(個人主体)の「内部にある」とされるものが、外部に表出される＝「コミュニケーション」される、あるいはそのように想定されることで成立する意味作用の局面や、またそうした意味作用が形成する社会性の論理の探究に、とくに強い関心をもっている。西欧18世紀の「幸福(happiness)」概念の系譜学的探究から始まったが、その後、顔や表情の読解(観相学)の編成、情念(passion)や感情(sentiment/feelings/emotion)に関する語りの分析へと広がっていった。現在は、日欧における「思想(thought)」概念の働きについて取り組んでいる。また、こうした発想をもとに、1980年代以降の日本社会における「好感度」という言葉について、メディア論的視座を加味して考察する、といった「応用」を行ったりしている。</p> <p>【研究方法の特色】上記で説明した通りだが、なるべく現代の視点をもちこまずに歴史的な言説群を捉える努力を重ねる一方で、特定の言説群を探るうえではつねに現代性／現代社会への理論的思考が働いている。両者をまずあえて方法論的に切断したうえで、別の次元で両者を衝突させる思考実験を繰り返す。そんな感じである。</p>	
本研究関連 特許・論文等		
共同研究・外部機関 との連携への期待		